

第 7 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成28年7月27日（水）

開催時間 午前 10 時 00 分から午前 12 時 02 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 守屋 守
教育長職務代理者 白川 太
教育長職務代理者 飯室 元邦
委員 和田 一枝、野田 清紀、武者 稚枝子

出席職員 教育次長 宮沢 雅史
教育監 小川 巖
総務課長 小島 良一
福利給与課長 柏木 精一
学校施設課長 望月 啓治
義務教育課長 青柳 達也
高校教育課長 手島 俊樹
社会教育課長 岩下 清彦
スポーツ健康課長 赤岡 重人
学術文化財課長 小澤 祐樹
新しい学校づくり推進室長 鈴木 昌樹
国体推進室長 三井 勉
企画調整主幹 成島 春仁
総務課総括課長補佐 草間 聖一
政策企画監（総務課課長補佐） 古澤 善彦
総務課課長補佐 篠原 孝男
総務課課長補佐 望月 明男
総務課副主幹 保垣 利恵

傍聴人 0 名

報道 0 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

議案11号及び議案13号については、個人情報に関することであるため、非公開としたい旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ、非公開とした。

1 議 案

第 11 号 職員の処分について

（ 非公開 ）

〔説明〕 義務教育課

【原案どおり決定】

第 12 号 甲府工業高校専攻科の学科・定員及び教育内容の概要等について

〔説明〕 新しい学校づくり推進室

野田委員

私の質問は4点あります。

1点目は設置まで4年掛かるという理由を教えてください。

そして2点目が、既卒者も入学可能か。また、ほかの工業高校からも入学可能か。

3点目が、定員を15名と5名に絞った理由。例えば電子科のほうが多い時もあると思うんですね。そういった時にどう、その比率で行くのかどうか。

4点目が大学編入という話がありましたけれども、どの大学のどの工学部にも編入可能かどうかという、その点をお答え下さい。

- 鈴木室長 まず設置まで4年掛かるということですがけれども、今甲府工業高校の中に空き教室等がございませんので、新しく施設整備をすることを今検討しております。どうしても設計とか工事等に2年、3年掛かりますので、一応平成32年4月の開校、設置を予定しているということです。
それから他校からの入学ですがけれども、県内の工業系高校、専門高校は4校ですね。甲府工業、韮崎工業、峡南、都留興譲館。それから総合学科高校、甲府城西高校、富士北稜高校。その6校は入学できることにしております。
また、検討委員会の中で、まあ他県にもPRして他県の生徒も入学することができるようにしたらどうかというようなご意見もございましたので、その辺も今後検討していく予定であります。
- 野田委員 既卒者、新卒じゃなくて既卒ですか。
- 鈴木室長 既卒者も工業系高校を出て25単位取得していれば入学対象となります。それから15人、5人の比率ですがけれども、定員につき、特に甲府市内の定員につきましては特に、例えば定員を超えて入学をさせるということも特に制度上、特に制約等ございませんので、その辺はその時の状況を見ながら柔軟に対応していくことができると思います。
それから大学への編入学ですが、県内で工業系高校の大学と言いますと山梨大学のみになります。あくまでも県内就職ということを目指しておりますので、例えば他県の工業系の大学へ行ってしまうと、そのまま他県へ就職してしまうというふうなこともなりかねませんので、あくまでも前提は今山梨大学へ編入学できるように、ちょっと山梨大学と今カリキュラム等の検討を行っているところでございます。
- 野田委員 テレビなんか見ているとロボコンというのを年に1回にやっているんですね。あれに何とか高専、何とか高専と出てくるから、ぜひ山梨もそこで活躍をして名前を挙げてもらえるようにがんばってもらいたいと思います。
- 白川委員 今もちょっと関係するんですけど、今のような事業をやるやつで、結構ただ単に物を作るだとか、設計をするという知識を教えると、これは基本ベースなんですけど、今のように何かの課題に対して向かって、何かのテーマに対してだとかというのってすごく重要であって、結構最近「探求」という言葉を使うじゃないですか、課題を解決するために。私、何か説明する時とか、こういう絵の中にその「探求」という単語を入れるほうが今の親とかも少しずつ探求という言葉が分かりつつあるかなと思います。この間、実は山梨県の山梨市にある産業技術短期大学校、あそこの子供たちをインターンシップとかでも結構見てきたんですけど、ものすごくよくなっていますよ。これはもう、いろんな方に僕お薦めしているんですが、すごくいいんですよ。何でと言ったら、その時に出了た企業さんの言葉とかも、やっぱり「探求」という言葉を使っていたんですね。多分そういう課題を解決したり、みんなで、チームで何か、多分ロボット大会に出るだとか、そういう取り組みというもので向上していくというので、結構技術関係ってやりやすいですよという形で、その辺ちょっとお使いになられたほうがいいかなと思いました。
それと設備なんですけど、お金が結構掛かるとは思うんですが、私、山梨県が持っている、なのかどうか分からないけど、工業技術センターさんというのがありまして、あそこの連携って結構、学力というか、教育関係では余りなんか活用してなくて勿体ないなと常日頃から思っていますよ、結構先端的な設備があるんですけど、中々そういうものを企業が有料で使うレベルですので、あれ学習の場に例えばいいんじゃないかなと思ったり、先生もいますしね、という。
それと間違いなく入れて欲しいのは、私のこれは個人的な要望です。3D、キャドカムだったら3Dで、あとは3Dプリンター、ここはもう絶対必須にしていたきたいなと思いますね。この現場の設計する人にも絶対必要なのは間違いなく3Dプリンターでしょうね、と思いますので、ぜひお願いしたいです。
- 鈴木室長 今後さらに具体的な検討を行って参りますので、その中で「探求」という意味の言葉ですか、それを使ったり、あるいは工業センターとの連携とか、キャドカムシステムといったことについても検討していきたいと思っております。
- 飯室委員 この絵でいきますと、さっき縦割りということをやめようと言っていますが、産業労働部の中にある産業短期大学、塩山の、私4年間後援会、PTAとか、トータルの会長を私4年間してしまっていて、かなりあそこの応援したんだけど、まだあそこも都留キャンパスなんかは定員数割れなんですよ。だからこっちは独り立ちしちゃおうと産短大と都留キャンパスが定数減少していくとトータルは全

く同じになっちゃうんですよね。もっとやっぱりそれを横軸で考えていかないと、新しい所には間違いなくフレッシュさがあるから応募者が来ますけど、向こうのほうに行くと結局そういう減少していきますから。しかし産短大というのは9割はやっぱり県内就職なんですよ。県内の学校に行くと間違いなく県内就職が比率が高いですからいいことであって、そういうふうにはぜひ横軸を考えて教育委員会と産業労働部は違うという感覚でなくてグロスで考えていただいて、多分ここに来ちゃうとまた向こうは定員数は減ると思うんですよ、パイは同じですから、取りっこするのは。そういう意味でやっぱりもっともっと大きな気持ちで考えていただいて、山梨県の工業生のものづくりの後方支援ができるような形で、連携をぜひお願いします。

和田委員 32年からということなんですけども、そこを受験したいという子供たちのアンケートなんかをずっと見ているんですけれど。実際にどういうふうになっているかということはまだ開校していないので見ることはできないんですけれども、何かその対策みたいな、受けた子供たちが常に情報を得るような形で、オープンキャンパスみたいなのはできないと思うんですけれど、何か考えてあるんでしょうか。

鈴木室長 この8月に学科ですとか定員ですとか、基本的な情報は周知をする予定なんですけれども、今後詳細な検討を行いますので、それが決まった段階で常に子供達には情報提供していきたいというふうに考えております。

教育長 今日、ここで決めていただく内容が1学年20。機械系15、電子系5、という内容が今日教育委員会でご了解いただければ、まずこれを今の中学生の生徒に情報提供していきます。まだ最終的に学科だとか細かい話はこれから詰めていくものがありますので、それから建物はどういう建物なのか、それに対してどういう機材が投入されるのかとか、民間さんとデュアルシステムというものを、民間さんにも1カ月ぐらい例えば研修に行くようなシステムを考えていますので、そういうものが固まり次第順次情報を出していくということで、今日ここで決まったものをまずすぐに速やかに出していくということでもいいですね。そういうような形で、例えばすぐにその場でどんどん情報を出しながら、なるべく意欲のある方をまずは来年の4月に工業系の、甲府工業も含めて、工業系の入学する方々にしっかりと情報は出していきたいというふうに考えております。

武者委員 今年はアンケートを取って見たら30数名いらっちゃったということでも、その時点で予定の定員は超えているんですけれども、また説明を、学校説明なんかがあると希望者がもしかしたら増えるかもしれない。そういった時に、この入学時というふうにして書いてあるんですが、決める募集の試験ですとか、そういったものはどんなふうな形で行うんですか。一応高校3年生卒業見込みの希望者を大学受験ですとかという形に似たような日取りで希望を募って試験を、決定可否を出していくんでしょうか。

鈴木室長 3年生の2月頃に受験をして可否を決めていく形になると思います。

武者委員 そして大学のほうは一応今度説明会の時に大学にも編入学が、山梨大学との話し合いで2年生に編入なのか、1年生に編入なのかということでしょうけれども、そういったことも可能になるということまで話があって、8月に説明会なんだろう。そうするとまたすぐく学生さんにとっては先がすぐくいろいろな方向に進めるなということで、中三で話を決めた時に、また選びたいと思う人たちが増えると思うんですけれども。

鈴木室長 今、編入学につきましてはちょっと山梨大学のほうで検討していただいておりますけれども、あくまでも編入学する場合にも編入学の試験というのがございますので、要はその受験資格が得られるような科目を設定をしていくこととなりますが、実際に8月に周知をする時までにはちょっとそこまで詰められるかどうかというのは、まだ今のところでは何とも言えませんが、要はそういう条件整備を進めていますというふうな周知におそらくなるうかと思っております。

武者委員 多分学生さん、中三で高校なんかを受ける時に、先がいろいろ選べるという、さらに学べる可能性があるというのはいくらもよく入校希望が増えると思います。

飯室委員 編入というのは結構難しくてですね。僕の友達なんか高専か何かで、ほかの県で採用か何かやっているんですけど、高専に行って編入されちゃうと大学に行っちゃ

うんですよね。大学に行っちゃうとまた県外に行っちゃうんですよね、就職が。結構そういうケースがあって、逆に高専を終了して採りたいんだけど、ワンランク上に行っちゃうと本当にそういうのを悩んでいるところがございますので、その辺をちょっと整理してやられたほうがいいかなと思うんです。あまりそこばかり前に出しちゃうと、梨大にけったるい人が工業の専攻科に行って、そのまま梨大に入ると、もっとワンクッションの道になっちゃうと本当の受け皿の学校とはね・・・ぜひよろしくをお願いします。

【原案どおり決定】

第 13 号 山梨県考古博物館協議会委員の委嘱・任命について
(非公開)

[説明] 学術文化財課

【原案どおり決定】

2 報告事項 な し

3 その他報告

(11) 山梨県社会教育委員の公募について

[説明] 社会教育課

白川委員 社会教育委員がどんな役割をするのかの方をもう少し具体的に、教えて下さい。

岩下課長 現在ですけれども、平成26年度から28年度の委員さん方には、『社会が人を育み、人が社会をつくる「やまなし」好循環づくり』という諮問について話し合いをしていただきまして、その中でそれに関する調査研究をしていただきまして提言のような形でまとめていただき、まもなく提出をしていただくというようなこととなりますけれども、それを年間4、5回の会合を持ちまして主にしていたところがございます。

白川委員 それを作られるメンバーであるということですか。

岩下課長 そうですね。まあ作ることも一つの職務でありますけれども、その中で調査研究、実際の事例研究もしていただいているところがございます。

教育長 実際にその専門家の方が出てきていただいているんですけども、原案は我々実務、我々の教育委員会のそれぞれの関係する課が作りまして、それに対していろんな意見をもらったり、こう変えたらどうかというやり方がまあ一般的なやり方になります。ですから、本当にその方々が自ら、一から組み立てをしてということまでやっていただいているわけではないんです。

岩下課長 実際執筆につきましては編集委員というような形で、この中で大学の先生方を中心に原案を作っていただきまして、それを全体でまた検討するというような形で進めております。

教育長 例えばこういう骨子にしたらか、こういう案も入れたらどうかとかという、やり方とすればまずそういうものがあって、それに基づいて具体的に事例として書き始めて、それで書いて、もう一回委員の皆様に見ていただいて、これが足りない、これは違うとかとやって、またブラッシュアップをしながら、おそらく2回か3回ぐらいやって最終版を作っていくという形になるというというのが一つの計画を作る時のやり方になりまして、あと計画でなくともその時々トピック的な問題があれば、それに対してどういう取り扱い、どういう対応をするべきだとかという意見ももらいますので、この社会教育全般に対していろいろなご意見をいただく委員さん方。立場とすればそれぞれ、こういう委員の要件に書いてありますがいろんな専門の分野があって、今回一般の県民目線でご意見も当然、専門家の方はそれぞれ専門の分野でご意見をいただくけども、県民として本当に、ちょっと言い方は悪いんですが素人的なご意見も我々にとってみれば本当にありがたい意見もありますので、あっ、県民の皆さんはこういうことをお考えになっているのかというものも必要なので、今回はそういう公募を一般的に広くさせていただきます。

今こういう教育委員さん、社会教育委員さんも含めて、もうこういう審議会も協議会も広く一般目線の県民を公募でやるというのは本当に当たり前やり方をしていきますので、これ以外に専門の方はそれぞれ我々が責任を持ってこの分野の方、教育の代表の方、保育の代表の方、障害関係の専門的な分野とかは別にお問い合わせをして、一般の県民目線の方は公募で論文を書いていただくのか、そういうやり方をしながら選ばせていただくというような状況です。

- 教 育 長 一般公募の方を今回はお問い合わせ、応募して下さいという働き掛けをやりたいと思います。
- 岩 下 課 長 15名のうちの2名ということでございます。
- 教 育 長 学識経験者の中に一般の方が入ってくるという形になります。
- 野 田 委 員 この学校教育関係者3人、社会教育関係者4人と。この割合というのは決まっているものなの。
- 岩 下 課 長 はっきりとは書かれておりませんが、もう何年か同じような割合で来ています。
- 飯 室 委 員 今のその15人の現状の男女の比率あるいは平均年齢はどのぐらいなのか。
- 岩 下 課 長 現在は男性8名、女性7名でございます。平均年齢が51.8歳となっております。
- 飯 室 委 員 結構若いですね、県の中では若い。
- 飯 室 委 員 これ年間予算どのぐらい使っているんですか。
- 岩 下 課 長 それ今ちょっとはっきり手元に資料ございませんけれども、その会合を持つための予算はいただいております。
- 飯 室 委 員 分かりました。
- 教 育 長 ちょっと今一瞬ドキドキしましたけど、今、飯室委員さん多分ご承知をされながらご質問されたと思うんですけども、こういう委員会を作る、構成する時に県も一応目安があって、女性の委員さんを4割お願ひしよう。それから余り長くお願ひするのは、今何期だっけ、4期、目安は。すみません、何期か分からないんですけど、余り長くやっていただくというんな方から意見をもらうほうがいいだろうということ。
- 教 育 長 4期。1期2年で、最大4期とか、そういうような目安があります。完全それで縛られているわけではないんですけども、年齢もずっと同じ方を頼む傾向があるので、割と、例えば平均年齢が70に近いような委員会もあることも確かです。我々も頼む時にずっと同じ方に頼むと楽なので、そういった傾向があるのは確かなので、今回ちょっと飯室委員さんに質問をいただいた時にドキッとしたのは51.8ということで、ちょっと安心しました。

【 了 知 】

3 その他報告 な し

〔 教育長閉会宣言 〕